

# DPA (DWIDP) JICA 便り

防災対策アドバイザー (Disaster Prevention Advisor) 水資源省治水砂防局 (DWIDP)

No. 5 / 2007. 1. 30

あけましておめでとうございます。また寒中お見舞い申し上げます。ネパール暦での新年は4月中旬のため、1月1日は特に休日ではなく、お正月気分というものはありません。ここカトマンズでは昨年に比べ霧の朝が多く、寒さも厳しく感じます。1月の中旬からの約2ヶ月間は吉日が多く結婚シーズンとなっています。通りをマーチングバンドと花婿・花嫁が乗った車の行進を見る機会が多くあります(真夜中の行進の場合、閉口しますが)。



花嫁を迎えに行く車とマーチングバンド  
(パタンのメインストリートにて)

国内情勢については15日に暫定憲法が公布・施行されるとともにマオ派も参加した暫定議会が召集されました。これで今年6月に予定されている制憲議会選挙に向けたプロセスが確実に進んだと思われます。しかし16日以降、タライ地域(ネパール南部)の活動家(タライ人民の権利フォーラム)によるタライ地域の権利要求・暫定憲法等への抗議行動に端を発した東部・中部タライ地域における通行車両・政府関係施設等に対する放火、マオイストとの衝突、治安機関との衝突等が発生し、多数の死傷者が出ているなど治安状況が悪化しており、政府は外出禁止令の発令等により対処していますが、対象地域が次第に拡大(ピラトナガル、ジャナカプル、ビルガンジ等)し住民が参加し暴動化するケースも見られています。またカトマンズではタライの放火に関連した運輸業者組合によるチャッカジャム(交通妨害)や水供給公社職員による民営化に反対する交通妨害等が発生するなどの混乱も見られます。この他、乾季のはじめから実施されている計画停電が1月下旬から強化され、毎日3時間の週21時間となっているなど生活面での不便さも増してきています。

今後とも安全に十分注意を払いつつ、ネパールの災害の軽減を図り、災害で苦しむ人々が少なくなることを願って活動を続けていきたいと思っております。本年もご指導・ご支援よろしくお願い申し上げます。

## ムグリン - ナラヤンガード道路防災対策開発調査の事前調査団が来ネしています



ルアコーラにおける現地調査(中央左から三村総括、國分氏、大野氏、石渡氏)

1月14日から2月9日の日程で、「ムグリン - ナラヤンガード道路防災対策計画調査」(開発調査)の事前調査団が来ネされています。M-N道路はカトマンズとインド方面を結ぶほぼ唯一の道路でありカトマンズを支える人・物輸送の大動脈です(調査内容等については3頁参照)。

調査団のメンバーは、総括としてJICA本部地球環境部

第3グループ(水資源・防災)三村防災チーム長、土砂災害対策として JICA 石渡国際協力専門員、調査企画として JICA 本部地球環境部第3グループ大野氏(以上1月24日~2月2日)、斜面防災/砂防/地形・地質として國分裕氏(株)サンテックインターナショナル、1月14日~2月9日)、道路/橋梁計画として西島國昭氏(株)建設企画コンサルタント)、自然環境/社会環境として渡辺幹治氏(同左、以上1月16日~2月2日)の6名からなります。

先行して到着したコンサルタントグループの方々(治水砂防局(DWIDP)、道路局(DOR))を訪問するとともに18日~20日の日程で筆者、DWIDPのトラダール課長とともに現地調査を実施しました。現地ではDWIDPのM-N道路プロジェクト事務所のバンディ所長はじめ2名のエンジニア、そしてDOR現地事務所のエンジニアも合流しました。24日にはJICA



水資源省次官(中央)への訪問

本部のメンバーも到着され、早速、ワールドバンクそしてJICA事務所を訪問されました。25日にはDWIDP、DORその他関係機関の訪問、26日~27日は6名の調査団全員とJICA事務所のラナ所員、筆者、DWIDPトラダール課長と現地調査を実施し(現地でM-N事務所員、DOR現地事務所所員合流)、斜面崩壊状況、既設施設の設置・被災状況等を調査しました。さらに現地から戻った翌日の28日には水資源省次官(Mr.Tika D.Niraula)を訪問されまし

た。29日からはDWIDPにてDWIDPのバッタライ局長、ダカール副局長、DORのレグミ副局長とともにS/W(Scope of Works)の協議に入り、S/W、M/M(Minutes of Meetings)の内容の詰めを実施しているところです。

### 主な出来事・トピック

#### ティミ市の小学校に雨量計を設置しました

NPO法人ネパール治水砂防技術交流会(NFAD)の活動のひとつとして、カトマンズとバクタプールの中間にあるティミ市のShree Bulbhusan Secondary Schoolに雨量計を設置しました。12月24日に引き渡し式が行われ、同時にノート、鉛筆、サッカーボール等の学用品を寄贈しました。式典では筆者から降雨と災害との関係、気象観測の重要性について説明しました。また観測方法についてDWIDPのOBであるバンディ氏から先生方に対して説明を行いました。

本年度のNFADの主な活動として、カトマンズ盆地内の3つの学校(Jana Bikash Madhyamik Vidhyalaya, Matarirtha, Bishnu Devi Shiksha Sadan Secondary School、Shree Chamunda Secondary School)において水災害に関する作文コンクールを行っており、現在、提出された作品の評価を実施しているところで、表彰式を3月頃実施する予定です。



話を聞く生徒達と雨量計(右背後)



バンディ氏(左)による先生方への計測法の説明

## 松下 NFAD 会長（前衆議院議員）がネパールを訪問されました

NFAD 会長である松下忠洋前衆議院議員が奥様とともに 1月 25 日（木）から 29 日（月）の日程でネパールを訪問されました。今回のご訪問はマテマ元駐日大使ご令嬢 Kalpana さんと Christopher Howell 氏（米国人）の結婚披露宴に出席するためです。27 日（土）カトマンズ市内の陸軍施設内「Club Tudikhel」で行われた披露宴には平岡駐ネ日本大使をはじめ多くの方が出席されていました。先生ご夫妻はネパールでの滞在中、26 日にはエベレスト方面のシャンボジェまでヘリで移動されヒマラヤの山々を視察され、また 28 日夜にはインフラ整備等に関係する在ネ日本人にて先生ご夫妻を囲む会を開催させていただきました。この間、タライ地方では暴動が発生しカトマンズ盆地内でも抗議ラリー等が実施されましたが特に大きな影響を受けず、29 日にネパールご訪問を無事終えられました。



新郎新婦（中央）と松下先生ご夫妻

### 防災対策アドバイザー活動

#### ムグリン - ナラヤンガード開発調査をサポートしています

1 頁目に記載しましたように、現在ムグリン - ナラヤンガード道路防災対策計画調査のための事前調査団が来ネされています。本開発調査は防災対策アドバイザーの TOR には直接記載されていませんが、ネパールの防災に関して大きな位置を占めること、及び筆者に対して JICA から参団の要請があり、事前調査団と DWIDP 等の打ち合わせに参加し必要に応じ連絡調整等を実施しています。本開発調査は M-N 道路において斜面崩壊・土砂災害



DWIDP における S/W 協議：29 日  
（中央：DWIDP 局長、右側机：調査団）

等の被害が軽減されるように、当該道路の防災に係る全体計画を策定するもので、具体的には災害発生危険箇所を明らかにするとともに、必要な対策を盛り込んだ総合防災計画を策定し、その計画において提案された優先箇所についてフィージビリティスタディを実施するものです。またこの調査を通じてカウンターパートに対して知識や技術が移転されることとなります（内容等現在協議中）。

### ヘイハチローの「ナマステ、ネパール」コーナー（寄稿）

（DMSP-FU 専門家としての任期を終えられ昨年 8 月末に帰国された「ヘイハチロー」こと、中川平八郎氏の「眼」で「日本から」見た「ネパール」について今回特別に寄稿いただきました。）

#### ヒマラヤの麓

帰国して四ヶ月余り。自宅の周辺の散歩の折に見る道や川も建物は勿論土地の整備や町並みは、突き刺さって来る様な直線であり、一方一年半の間見慣れていた其れは、優しい

曲線の続く向こうにガラス質の白い異質な山々がほんの少し顔を覗かせていた様に思い出されます。自身何が変わったといえ、秋風が頭髪をなびかせる事を久し振りにハッキリと肌で感じさせられた事でありました。彼の国は、吾が禿頭に髪の毛が生えてくる程にとても似合っていたのでしょうか？



処で、勝った負けたと合理的に議論し結果を出し行動することは今の一般的な行動様式であります。が、何か物足りなさを感じます。帰国した後に、人は美しい事を、又何か行動する前に“前提”を大切にして夢を求める事が自然な事ではないのかな？と想う様になっている自分に気付きました。技術支援を課題にネパールで過ごしましたが、本当に現地の人達と美しい一時を一緒に過ごす事が出来ていたのかどうか反省するところです。そして、橋本明氏（元京都府砂防課長）が生前熱心に心を込めてなされたお話の一部は、この事に通じるのではないかとさえ想われました。

そう云えば、現地では雨季が明けている筈。現地資材で造った施設は其の計画・目的を果たしているだろうか？と気になっている折に電話が入ってきました。現地で一緒に短期間仕事をした岩橋敏郎君（復建調査）からでした。彼も彼なりに気になっている様子。社長（東洋技研 Con.：島村氏）に相談すると出張扱いにすると即刻返事があり、有り難く行く事としました。連れ合いも笑っていました。

平成 18 年 12 月 5 日 KTM 空港に着くと、何とということでしょう！マーダを肩から掛けた勝田君が、サランギ名手の片山婦人が、岩橋君の顔も見えます。武士専門家も時間を空けて迎えに来て頂いています。DWIDP の方々、JICA ネパール事務所の吉浦所長始め皆様から“お帰りなさい！”の声を掛けられ、第四地方事務所のスタッフからは直ぐに現場踏査を始めると云う申し入れが在ります。一人トボトボと現地踏査をする覚悟でやって来た小生は、この雰囲気に十日間飲まれました。夜は懐かしい方々との交流が毎夜続きました。施工現場では良くその機能を果たしているのや、人災に会ったのや種種ありました。又、岩橋君の Utish Fund は形が見え始め Home Page を立ち上げる方向に、一方 Mishra-G (No.4 DO.Eng.) は Work-shop の再開に向けて動き出した様子でした。災害復旧事業の執行体制は尚尚未成熟では在りましたが、新しい芽が動き始めたようにも感じられました。

“昨日の事は忘れた。今日は一生懸命。明日の事は知らない。”と誰かが云っていましたが、今回の経験ではこの小話は何処かへ行ってしまった様でした。

何れにしても武士俊也専門家のこの上ない我々二人へのお心配りの賜物にて楽しく美しい時を頂けました事に深く感謝し、この国が早く政情安定するようにと祈ってヒマラの麓を去りました。

編集責任者：武士俊也

電話：+977-1-5535502 Fax：同-5523528 E-mail：[dmspfu@wlink.com.np](mailto:dmspfu@wlink.com.np)